

ごあいさつ

埼玉県保健医療部 副部長 関本 建二

皆様、こんにちは。

御紹介いただきました埼玉県保健医療部副部長の関本でございます。

本日、部長の石川が所用のため出席できませんので、代わりまして御挨拶を申し上げます。

本日、ここに、埼玉県合同輸血療法委員会主催の「第7回埼玉輸血フォーラム」が、多くの皆様の御参加のもと、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

また、皆様方には、日頃、本県の保健医療行政の推進に、多大な御理解と御協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

本県では、昨年度は約23万3千人を超える方々から献血をいただき、医療機関に必要な血液製剤を供給することができました。

これも多くの県民の皆様の献血に対する温かい御支援・御協力の賜物と心から感謝しております。

しかしながら、県内の献血量では医療機関からの需要に対して十分に賄いきれていない状況にあります。

幸い、血液製剤の供給は、関東甲信越ブロック血液センター管内の一都九県で調整しているため、医療機関への供給に不足が生じていないというのが実情です。

加えて、本県の後期高齢者人口は現在の77万人から9年後の2025年には118万人と、約1.5倍に増加することが見込まれ、全国一のスピードで高齢化が進むと予測されています。

このような高齢者の増加により、今後医療現場において、血液製剤の需要が一層拡大し、供給が逼迫する事態も懸念されます。

そこで、県では、将来にわたり必要な血液量を確保するため、埼玉県赤十字血液センターと連携して学生ボランティア、タレントなどの御協力をいただきながら、イベントやキャンペーンをはじめ様々な啓発事業を積極的に展開し、献血者の確

保に努めております。

特に、若年層の献血者を確保するため、教育委員会をはじめ関係機関と連携して、高等学校における「校内献血」の推進に力を入れております。

その結果、昨年度、本県の高校生献血者数は平成19年度から8年連続で日本一となっています。

また、小・中・高等学校における「血液に関する出前講座」を実施し、次世代の献血者の育成にも力を入れております。

皆様方におかれましても、献血者の確保に引き続き御支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

さて、ご案内のとおり、「埼玉県合同輸血療法委員会」は平成21年7月に発足し、今年で7年目を迎えます。

これまで、輸血医療の問題点を調査・検討し、その改善方法を提言するなど本県の輸血医療の向上に多大な貢献をされてきました。

本年1月からは、安全で適正な輸血医療の向上を目的として、県内共用の「赤血球不規則抗体保有カード」を作成し、運用することになったとお聞きしています。

本日は、活動報告のあと、適正輸血を推進するためのキャッチフレーズ及び標語に係る表彰式、シンポジウムを予定しています。

このフォーラムを通して、本県の医療機関における輸血の安全対策や血液製剤の効率的で適正な使用が推進されることを期待しております。

結びに、本日御参会の皆様にとりまして、このフォーラムが実り多きものとなりますよう、また、埼玉県合同輸血療法委員会のますますの御発展と本日御参会の皆様のお健勝を祈念申し上げ、私のあいさつとさせていただきます。

平成28年2月20日

埼玉県保健医療部 副部長 関本建二